



おがわかず まさひろ  
れいわ 小川一馬 議員

### 環境衛生について

**問** 新ごみ処理施設建設計画の進捗状況および事業スケジュールを伺います。

**答** 建設環境部長 山武郡市環境衛生組合では、令和10年度稼働開始を目的に、現在、基本設計や生活環境影響調査等、必要な調査を行っており、令和5年度は用地を取得し、令和6年度からは埋蔵文化財の本調査を予定しています。

**問** 新ごみ処理施設の特徴を伺います。

**答** 建設環境部長 山武郡市環境衛生組合に確認したところ、現在、ごみ処理方式を選定中とのことで、①災害に対する強靱性を有し、安全性に優れた施設、②環境へ配慮し、地域との融和を図った施設、③エネルギーの活用を図り、経済性に優れた施設を、基本方針として建設を進めていると聞いています。

**問** 可燃ごみ袋の特大大サイズの導入について伺います。

**答** 建設環境部長 山武郡市環境衛生組合に確認したところ、導入に向けて検討を開始したと聞いています。

### 教育行政について

**問** 近年、大きな社会問題となっている教師の働き方改革ですが、本市における教員の超過勤務の状況を伺います。

**答** 教育部長 令和4年11月に県教育委員会が実施した教員の勤務状況調査では、1か月で45時間を超える一般教員は、山武市の小学校では全体の53%、中学校では55%であり、県全体の平均と比べ、小学校は同程度、中学校は少ない状況となっています。

**問** 教員の休日出勤の現状と今後について伺います。

**答** 教育部長 土曜日・日曜日は、基本的に勤務を要する日ではありませんが、部活動や授業の準備等で出勤している教員はいます。なお、今後、休日の部活動が地域に移行していくことで、勤務時間の状況は改善されていくものと考えます。

**問** 山武市教育委員会では、今後どのように働き方改革を進めていくのか伺います。

**答** 教育長 教職員の意識改革をはじめ、学校行事の精選や部活動の時間短縮、ICTを活用した事務の効率化、地域の方々による学校支援など、さまざまな取組により、わずかではありますが、その

成果も現れてきています。

さらに強化できるよう、現在、下校時刻を早める工夫や休日の部活動の地域移行などについて、取組を始めたところです。

**問** 今後の部活動の方向性と進め方を伺います。

**答** 教育部長 今後、休日の部活動は、段階的に地域へ移行する方向であり、令和7年度には、移行できる部活動はすべて移行するよう進めています。

**問** 部活動の地域移行に向けては、地域のスポーツクラブとの連携も重要と考えますが、市が行っている支援の内容を伺います。

**答** 教育部長 市少年スポーツクラブ連合会の各クラブに、活動費を助成しています。今後は、新たな指導者の発掘や各クラブの活動環境等について、さらなる支援をしていきたいと考えます。

**問** 全国的に子どもの体力が低下傾向にあるようですが、本市の児童生徒の体力向上を図るための取組を伺います。

**答** 教育長 子どもの運動能力について、毎年、全国調査が行われています。本市のコロナ禍前と令和3年度の記録を比較すると、ほぼ同じであり、大きな体力低下は現れていません。

子どもの体力低下が起らないよう、体育の授業のさらなる充実や、学校生活全体で運動に取り組み機会を設けることができるように、各学校を指導していきます。

### 魅力ある山武市の海岸について

**問** 蓮沼海浜公園の再整備にあたり、海岸を活かすという観点では、どのように考えているのか伺います。

**答** 都市整備課長 再整備にあたり、市としては、海岸を活かすことは重要であると考えており、海に近接した立地を最大限に活かすことで、九十九里の資源である海の魅力を高めていきたいと考えています。

**問** 飯岡一宮線バイパス整備が完了すると、山武市へもたらす経済効果は計り知れません。九十九里海岸の中央に位置し、成田空港からは、はにわ道や圏央道の一本でアクセスできる好条件な立地を活かした観光政策を展開していくためにも、バイパス整備は重要と考えますが、市長の見解を伺います。

**答** 市長 県道飯岡一宮線バイパス整備事業は、千葉県が提唱する「観光立県」は推進基本計画の一翼を担う事業で、九十九里海岸の地域活性化や安心安全な交通機能の向上に大きく寄与する重要な事業と考えます。

事業主体は県ですが、市も情報提供等を含めたサポートを行い、これまでの経緯と現状を分析したうえで、早期完成に向けた要望活動もしっかりと行っていく予定です。

**問** 海岸入り口付近に設置されている門扉について、近隣市町村の設置状況

や不法投棄の現状を伺います。

**答** 産業振興部長 近隣市町村(十九里町、大網白里市、白子町、長生村)を現地調査した結果、管理の方法がそれぞれで多少異なるものの、海岸手前の入り口付近や海岸近くに門扉や車止め等を設置しています。

なお、本市も含め、海岸への家電製品や建設廃材等の不法投棄が大きな課題となっております。

**問** 潮干狩り場の開設検討について、進捗状況を伺います。

**答** 産業振興部長 令和4年11月、実際に潮干狩り場を管理運営されている木更津市の新木更津市漁業協同組合を訪問し、聞き取りを行いました。

レジャーの多様化により、年々、入込客数は減少しており、近年の経営状況は大変厳しいとのことでした。

本市で潮干狩り場を開設する場合、高額なハマグリが対象となるため、入場料金を高額に設定しないと採算が合わないことや、各種施設や付帯設備を充実させるための初期投資が必要であることの助言をいただきました。

今後、地元漁業協同組合や観光協会などの意向を踏まえながら、より魅力ある海岸の利活用の実現に向けて、可能性を探っていきます。



れいわ 山武市 議員 津 美 玉

### 教育行政について

**問** 最近、テレビ報道でもあるように、特に体育会系の部活動では、先輩・後輩の上下関係があり、そのような環境下では、いじめが起りやすいと言えます。本市の学校での部活動内におけるいじめの状況を伺います。

**答** 教育部長 本市の中学校の部活動でも、先輩が後輩に教えたり、指導したりする場面はあり、同級生同士を含め、人間関係のトラブルや先輩・後輩の上下関係に起因するいじめはありますが、軽微なものであり、学校の指導により解消されています。



**問** 学校でのいじめは、どのような形で報告があるのか伺います。

**答** 教育部長 いじめの把握として、教職員による日常の児童生徒の様子を観察に加え、定期的な教育相談やアンケート調査を実施しています。

また、校内の相談窓口の周知や、心の教室相談員およびスクールカウンセラーを配置することで相談体制を強化し、早期発見や組織的な対応に繋がっています。

**問** 他自治体で導入事例のある「心の天気」という、生徒の心の状態を把握できるアプリの導入について、本市での検討状況を伺います。

**答** 教育部長 現在、研究校1校を指定のうえ、同様の機能を持つアプリを導入し、活用について検証を進めています。

これは、生徒が毎朝、体の具合や気分該当する簡単なマークを選択して入力し、それを継続することで、担任が生徒のその日の状態や一定期間の気分の変化をグラフで確認できるものとなっております。

**問** アプリの導入および活用に向けた検証を行っている中で見えてきた課題等はあるのか伺います。

**答** 教育部長 授業を開始する前の朝の短い時間に、タブレット端末を準備して、アプリを立ち上げ、入力するまでの時間を確保することが難しいとの報告がありました。

**問** 文部科学省の調査では、30日以上登校しなかった不登校の小中学生は、令和3年度は過去最多の24万4940人と、初めて20万人を超えました。前年度から24.9%増加し、増え幅も過去最大とのことですが。

そして、本年2月14日には、その増加を受けて、1人に1台配布されている情報端末のアプリを使い、体調の変化や精神状態の変化を児童生徒に入力させ、そのデータを分析し、不登校の兆候を把握していくことを柱とする対策案を、文部科学省は有識者会議に示しました。

現在、アプリの試験導入は、研究校1校とのことですが、今後、他の学校でも導入予定があるのか伺います。

**答** 教育部長 現在、アプリの活用を検証している段階です。

今後、検証結果を整理し、課題を解決する手立てや導入校を増やしていくにつれて、検討していきます。

